

問二 次の文章を読んで、あとの1～7の問いに答えなさい。
1 8は段落番号です。

（古田徹也「いつもの言葉を哲学する」による。一部改訂がある。）

一 ㍿ a dの漢字のよみがなを書け。

二 ㉑に 火の手の大きさやそれに伴う熱量の多さ とあるが、その程度によってどのよう
なことが分かるか。「㍿ということ」に続く形で十字以上十五字以内で書け。

三 ㉒に 便利な言葉 とあるが、なぜか。「内容」「立場」という二語を用いて、四十
五字以上五十字以内で書け。

四 本文中の ㍿ にあてはまる言葉は何か。次の1～4から最も適当なものを一つ選
び、番号を書け。

- 1 国際的 2 感覚的 3 画一的 4 建設的

五 ㉓に 内容という面でまずい批判の典型 とあるが、そのような批判にならないため
のポイントとはどのようなことか。本文中から十五字で探し、初めの五字を書きぬけ。

六 段落の役割の説明として、最も適当なものを次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 ㉔と㉕は、科学的根拠こんきょを挙げて筆者の主張を強固なものにしている
2 ㉖は、㉑から㉓までの事柄を認めつつも異なる視点から述べている
3 ㉗は、㉔で述べた筆者の主張と予想される反対意見を比較ひかくしている
4 ㉘は、㉖から㉗までの事実から結論を得て新たに問題提起している

七 あなたが小学校六年間で、「言葉の大切さ」を感じた経験と、そこから学んだことや
考えたことについて、次の注意に従って百五十字以上二百字以内で書け。

- 注意 1 経験と学んだことや考えたことが分かるようにくわしく書くこと
2 作文の題名は書かず、本文から書き始めること
3 原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと